

図書館友の会 ニュース

発行 岸和田市図書館友の会 《発行責任者 松谷 敬一》

2020年
10月号
No. 17

図書館友の会 市民公開講座

久米田寺の歴史と文化財

講師 上田 尚道 師

(久米田寺 明王院住職)

大阪府の指定文化財であった「久米田寺文書(百十六通)十七卷」が2020年3月19日から国重要文化財に指定されました。これを機会に、市民公開講座を開催します。

配布資料に基づき、【開創と久米田寺】⇒【荒廃と再興】⇒【南北朝から室町時代】⇒【文化財】と進めていく中で、宗教の変遷と関係した人物の紹介、所蔵文化財の現状をわかりやすく説明していきます。



日時 11月26日(木) 14:00~16:00

場所 岸和田市八木市民センター(池尻町)

2階 講座室2

定員 40名(申込み先着順)《参加費 無料》

※11月6日(金)午前10時より岸和田市立図書館(本館)で受け付けます。

直接または電話(072-422-2142)でお申し込みください。



足利直義 (あしかがただよし)
願文 (がんもん)
1339年(暦応2年)8月18日

【主催】 岸和田市図書館友の会・八木地区市民協議会・岸和田市立図書館

図書館友の会総会

事業計画・役員体制など承認されました。

新型コロナウイルス感染防止のため開催を見合わせていた「友の会」総会は、8月7日に図書館本館で開催。2019年度の事業報告・会計報告、2020年度の事業計画・会計予算、新役員体制等について、提案通り承認されました。

岸和田の本徳寺と明智光秀の肖像画

文章教室 浦田榮二

NHK大河ドラマ『麒麟が来る』で明智光秀が注目されていますが、その肖像画が岸和田市の本徳寺にあるのはご存知ですか。その由来について、「友の会」文章教室の浦田榮二さんに書いていただきました。

江戸初期から明智光秀の肖像画がこの寺にあることは知られていた。逆臣となったので光秀の画像はほかになく、本徳寺の肖像画が全国で唯一のものだと言われている。

今年2月16日から3月8日まで本徳寺より実物を借り、岸和田市が岸和田城1階展示場にて公開展示した。通常の1.5倍の入場者があったとか。私も2月16日に見学に行った。

鳳凰山本徳寺は臨済宗妙心寺の末寺で妙心寺とは因縁も深い。旧岸和田藩時代、和泉一円の出来事を記した書物で中盛彬（なかもりしげ）著『かりそめのひとりごと』がある（熊取の庄屋）。

一気に書かれたものではなく題名の示す通り時に当たり、折に触れ心に浮かぶ事を、つぎつぎ書いたものである。

著書は、文化3年(1816)から天保年間(1830~44)の中頃までに書かれているが、この中に「**岸和田の本徳寺と明智光秀**」という項がある。江戸時代中期には光秀の画像が本徳寺にあることは、周知の事実となっていたのである。概略を書いて置く。

「岸の和田、本徳寺の開基を南国和尚という。彼は**明智日向守光秀が一子である**。光秀小栗栖にて討死し、亀山城も落城したとき、光秀が帰依していた京都妙心寺にかくまってもらおうべく依頼、妙心寺は僧として生きるべく取り計らい妙心寺塔頭『瑞松院』に住まわせ、玄琳と名乗らせ勉学させた。その後、名を南国梵珪（なんこくぼんき）と改め、学なり業を修めて後、和泉貝塚の鳥羽村に『海雲寺』と称する一寺を新建したが、兵火に焼かれた。その後、小祠となっていたのを、岸和田藩主岡部行隆の命で岸和田の地に移転させた。南国梵珪は父の逆意をよしとせず寺名を『**本徳寺**』と改め、また光秀が肖像を写し、師の妙心寺第90世蘭和宗薫に題辞を依頼し、位牌も作ってその菩提を吊っていた。画像は座像で、たけ1尺2寸強、膝の処は横幅1尺余り、小刀と扇を持っていて半身を写している」。

以上のように書かれている。光秀は天正10年(1582)6月2日、京都本能寺で主君信長を襲殺したが、山崎の合戦に敗れ、落ち延びる途中、小栗栖村の農民に殺害され「三日天下」と呼ばれているように、天下をとる望を持ってその機会を狙っていたとか、怨恨とか色々憶測されているが確証はなく、光秀反逆の真意は今もって不詳である。子どもの消息も詳らかでない。そのためか、この本徳寺開基の伝承も生まれたのだろう。

南国梵珪は妙心寺史によると寛永8年(1631)65歳と記されているので、逆算すると永禄9年(1566)に生まれたことになる。父光秀の37歳の時の子で、画像が書かれた慶長18



光秀の一子「南国梵珪」の墓と伝えられている。光秀ゆかりの寺には、南国和尚の墓はなく珍しい。

年（1613）には47歳となる。烏帽子をつけた光秀の像と伝えられという画像と位牌が本徳寺に伝えられている。画像には絹本、慶長18年6月6日付けで賛が書かれている。輝雲道琇禅定門肖像（輝と琇に光秀の名前が隠されている）“賛は紙面の都合で省略する”この賛辞で、光秀像だとする決め手にはなり難いが、「伝光秀像」だと言えるのではないか。

光秀が死亡して、慶長18年は33回忌に当たる。いずれにしても唯一の光秀の画像で、しかも立派な作品、**伝光秀画像**として、各種の書物に引用搭載されている。照会等は岸和田市が担当している。

光秀の法号は、この画像の賛に「輝雲道琇禅定門」位牌には「鳳岳院殿輝雲道琇大禅定門」とある。光秀の法号と称せられているものは幾つかある。いずれも各寺各様で同一でない。これも当時としては逆臣として各寺で密かに供養されていたためだろう。

なお、南国梵瑠の墓と言われているのが、貝塚市営墓地にあり今年3月15日私も訪れた。管理され献花もしてあった。鳥羽村の種田、灰田と言う両家が元禄11年（1698）に建立したが、この人達の話は現在不明。今は岸本という地元貝塚の人が管理している。この墓元海雲寺にあり、南側にあった妙楽寺に移されたが、橋本斎場開設に伴い廃寺となり、この時墓が斎場内墓地に移されたと伝わる。

（参考文献は紙面の関係で省略）

地名の秘密

⑮ 百足屋町（むかでやちょう）

呉服屋を営んでいた豪商の屋号から

京都市中京区に「百足屋町」という町名がある。百足とは、たくさんの足を持った節足動物、通常ムカデと仮名文字で書くと馴染み深い、気味が悪い虫の一つである。

それでは、どうして百足屋などという町名になったのだろうか。昔はムカデを油に浸し、切り傷などの薬にした。そうした薬を売っている店でもあったのだろうか。この奇妙な町名からは、そんなことが想像されるが。

京都には百足屋町という町が2か所ある。いずれも中京区で、一つは新町通りを挟んだ両側の地区、もう一つは夷川（えびすがわ）通りを挟んだ両側の地区である。

どちらの町名も江戸時代の初期には、すでに存在していた。新町通りのほうの町名は、この町にいた百足屋という豪商に由来するようだ。この百足屋は祇園祭には豪華な山車を出したという。

百足屋がどんな商売をしていたのかは明らかでないが、呉服屋との説がある。百足屋という屋号の由来もはっきりしない。だが、その屋号はおそらくムカデの足と客足との関係から名づけたものと思われる。

ムカデにはたくさんの足がある。客が足を運んでくれると、おカネがもうかる。また、おカネ（銭）のことを「お足」ともいう。

ムカデは見た目には気味が悪いが、昔は商売繁盛を願って呉服屋や小間物屋などが屋号に使っていた。なお、夷川通りのほうの百足屋町も、おそらく同じような来歴かと思われる。

〈文責〉 文章教室 浦田榮二

* 参考資料 日本全国・地名の秘密 北嶋廣敏著

図書館友の会「文学歴史散歩」バスツアーの案内

今年の「文学歴史散歩」は高野山奥の院、金剛峰寺および「丹生都比売（にゅうつひめ）神社（天野大社）」を訪れます。これらは、2004年（平成16年）7月に登録されたユネスコの世界遺産『紀伊山地の霊場と参詣道』の構成資産の一部であり、奥の院にはNHK大河ドラマ「麒麟が来る」の明智光秀の墓をはじめ、戦国武将の墓があることで有名です。



丹生都比売（にゅうつひめ）神社（天野大社）

●日時, 出発時間：11月13日（金）

8：45（図書館本館前）及び8：50（南海岸和田駅, 第一ゼミナール前）出発

●参加費：5,000円（入場料・昼食代等含む）

●申込人数：30名（申込先着順）

「図書館友の会」以外の方も大歓迎！

●申込方法：図書館本館へ直接または

電話（072-422-6109）で。

「図書館友の会」各教室の方は、各教室担当者に申し込んでください。

●締め切り：10月30日

★行程（中型バス利用）：参加費5,000円は当日でも構いません。



奥の院 明智光秀墓所

図書館（本館）前8：45発 ⇒ 南海岸和田駅東8：50発 ⇒（国道480号）⇒「高野山奥の院」入口10：30着・奥の院内散策約1時間、移動後「とんかつ定」にて昼食予定
「とんかつ定」12：30発 ⇒「金剛峰寺」12：40着・入館後自由見学約1時間15分
「金剛峰寺」14：10発⇒「丹生都比売（にゅうつひめ）神社」14：50着
「丹生都比売神社」15：20発⇒（国道480号）⇒南海岸和田駅東16：25着⇒図書館（本館）16：30到着予定

★ 参加者は、各自事前に検温して、マスク着用をお願いします。

★ 当日バスツアーにお越しになる方は、図書館の駐車場への駐車はご遠慮ください。